

しやきょう第1号

“地域に信頼され 安心を提供できる 社協を目指して”

発行元 社会福祉法人和泊町社会福祉協議会

発行日 平成23年 6月24日

社会福祉協議会では、任期満了に伴う役員改選が行われ新しい役員体制の下、社協ビジョンである“地域に信頼され 安心を提供できる 社協を目指して”平成23年度をスタートいたしました。

《役員紹介》

(敬称略)

会長	竿田 富夫	有識者	評 議 員			
副会長	長田 榮利	有識者	伊集院周克	区長会代表	榮 富 弘	民協代表
理事	名島 勝一	施設代表	勝男六弘	区長会代表	中村スエ	長寿クラブ代表
理事	和 正己	議会代表	榮 末雄	区長会代表	村田行夫	障害者団体代表
理事	川村 秀文	区長会代表	坂本元明	区長会代表	外山恵美子	母子会代表
理事	盛 泰夫	有識者	村吉政秋	農協代表	佐々木よし子	保護司会代表
理事	種子島公彦	行政代表	南 好二	商工会代表	吉峯実文	遺族会代表
監事	上原 清	有識者	島田香代子	女性団体代表	村 榮 政 美	行政代表
監事	松下元文	有識者	安徳建二	NPO代表	理事7名、監事2名、評議員15名	
第三者委員	永井一夫	民生委員	中屋吉右	福祉行政経験者	今井フサ子	学識経験者

《職員状況》

事務局	高齢者福祉部門	障がい福祉部門	児童福祉部門	合計
4名	35名	10名	35名	84名

～町民の皆さまのご理解とご協力をお願い致します～

I 平成22年度の主な社協活動（地域福祉活動）の実績について

①相談・支援事業

高齢者関係	障がい者関係	児童関係	その他	合計
95件	46件	3件	43件	187件

②福祉サービス利用支援事業（契約件数16件）

相談支援	金銭管理	各種手続き	書類等預り	合計
612件	161件	30件	19件	822件

※判断能力に不安のある方の日常生活を支援する事業です。

③福祉機器リサイクル（貸出）事業

車イス	ポータブルトイレ	杖・歩行器	その他	合計
9件	6件	1件	7件	23件

④シニアはつらつ（脳トレ）教室開催事業

○教室開催数：49回（延利用者数861名）

○学習サポーター派遣（延参加者数：309名）

※シニアはつらつ倶楽部・毎月1回わどまり保育園での交流活動（延参加者数：98名）

⑤支え合いマップ作成研修会（18名、延参加人数：209名）

⑥訪問介護員養成研修（2級課程）・資格取得者：32名（136時間）

⑦高齢者生活・介護支援サポーター養成研修会（7回22時間、延参加人数：130名）

⑧ボランティアセンター運営事業

○相談件数：49件、斡旋件数：57件

○ボランティアスクール・講座（20回、延参加人数：461名）

○歳末たすけあい街頭募金運動（延参加者数：123名）

○花の島ジョギング大会給水ボランティア活動（延参加者数：55名）

⑨共同募金「安心・安全福祉のまちづくり支援事業」（和字・谷山字配分 総額195千円）

⑩赤十字奉仕団研修会（参加人数：36名）、赤十字救急法救急員講習会（参加人数：8名）

⑪補装具相談会（5回、相談件数：22件）

⑫祭壇貸付事業（貸付件数：21件）

⑬福祉団体支援事業

○身体障害者福祉協会・母子寡婦福祉会・遺族会の事務局（行事等の企画運営）

○大島地区障害者ゲートボール大会・芸能大会の運営

○ふれあい福祉スポーツ大会の企画・運営

○障がい者グランドゴルフ大会（2回、延参加人数：71名）

※ 各種活動内容の詳細は、裏面をご覧ください。

II 平成22年度収支決算の状況（特別会計を含む。）

[収入合計：307,015,216円]

①会費	1,072,800円
	(2,682世帯)
②寄附金	2,555,584円
③補助金	18,490,800円
③受託金	117,465,835円
④事業収入	116,487,689円
⑤雑収入	7,289,688円

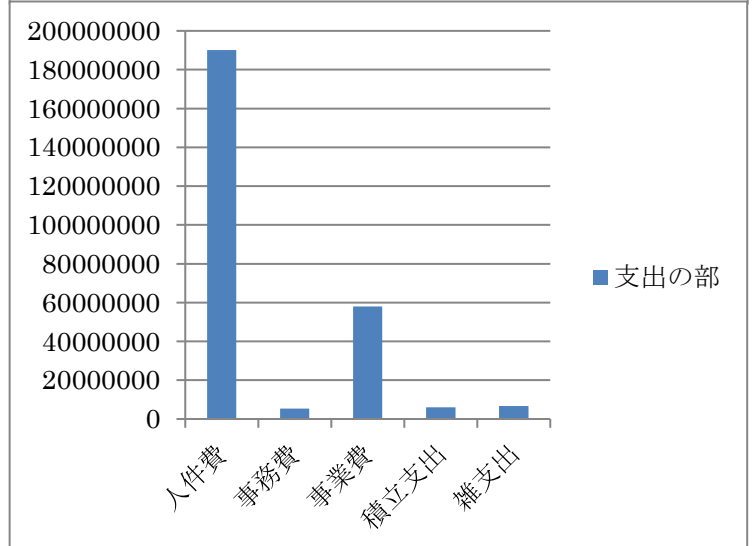
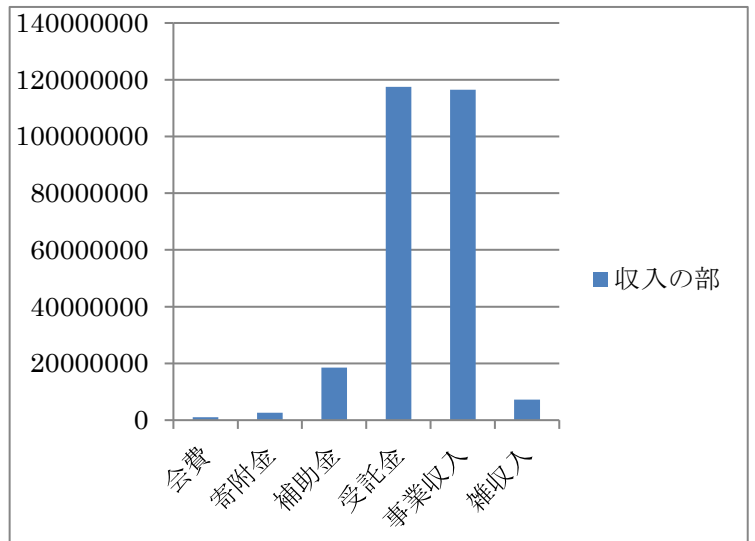
収入では、事業収入において、通所介護事業と障害者就労支援施設事業が増額となり、訪問介護事業で、利用者の入院や施設入所に伴い減額となっています。

[支出合計：280,068,283円]

①人件費	190,098,314円
②事務費	5,424,951円
③事業費	58,028,241円
④積立支出	6,000,140円
⑤雑支出	6,613,380円

支出では、国の緊急雇用対策事業に伴う契約職員の雇用（3名）による職員増や介護職員処遇改善事業に伴う給与改善費の支給等による人件費が増額となっています。

施設、設備の老朽化も顕著で、改善に向けた取り組みが課題となっています。



〔赤十字奉仕団研修会〕



赤十字奉仕団は、様々な赤十字活動を支えるボランティア団体で、本町では、地域女性連絡協議会がその役割を担っています。

研修会は、日赤県支部職員の指導のもと、年間の赤十字活動の報告が行われた後、非常時の炊き出し訓練や日常的なケガ等への対応、水難事故の対処法などの講習が行われ、36名の皆さんが、熱心に受講されていました。非常時の炊出し訓練では、水が無いことを想定して、様々なジュースを使用した方法も試され、関心を集めていました。

〔教職員福祉ボランティア講座〕

学校における福祉・ボランティア教育の向上とボランティア活動の推進を目的に、町内の小・中学校の先生方を対象とした福祉ボランティア講座を開催いたしました。県内のボランティア教育や活動に関する基調報告や車いす・アイマスク・高齢者疑似体験、就労継続支援施設や保育園での実践活動が行われました。施設の概況説明後、就労継続支援施設では、利用者との交流や紙すき体験、保育園では、紙芝居作りに取り組み、紙芝居を使用した読み聞かせにもチャレンジしました。

〔ボランティアスクール〕



児童・生徒に体験を通じて、福祉やボランティア活動に関する関心を高めてもらうことを目的に、学校からの依頼により実施しています。内容は手話やアイマスク、老人疑似・車いす・障がい者と流などの体験を通して、高齢者や障がい者の気持を理解し、福祉を身近に感じてもらえるように支援しています。国頭小の5年生は、車イス体験にレンジし、普段何気なく通っている通学路も車イスでは、ちょっとした段差や坂道も大きな障害にこと、車イスでの移動の大変さを学びました。

〔赤い羽根共同募金 街頭募金活動〕



「じぶんの町を良くするしくみ」をスローガンに全国一斉に行われた赤い羽根共同募金運動の一環として、12月29日に、児童・生徒、民生委員児童委員協議会、地域女性連絡協議会等の参加協力（123名）のもと、7箇所街頭募金活動を実施しました。集まって募金は、町内の要援護世帯（135世帯）に歳末見舞金として配分いたしました。活動に参加された皆様、活動場所を提供いただいた事業所様、募金にご協力いただいた多くの住民の皆様、誠にありがとうございました。



〔シニアはつらつ教室〕



平成21年度から元気な高齢者を対象に、認知症予防と脳の健康維持を目的に、毎週土曜日に社会福祉センターで開催しています。教室の運営は、ボランティアである学習サポーターを中心に、毎回、楽しく笑い声の絶えない教室です。会話が盛り上がり過ぎて、時間を忘れることもしばしば。日常生活の中で、音読や簡単な計算をする習慣をつけることが大切だと言われています。多くの仲間と気軽に楽しく“脳トレ”してみませんか。

～ 学習サポーターも募集中です ～

〔訪問介護員養成研修（2級課程）〕

沖永良部地域の介護人材の養成を目的に、平成11年度から県知事の指定を受けて、実施しています。これまでに、389名が資格を取得し、現在、様々な介護施設や事業所で活躍しています。

研修は、講義や介護演習、施設等での実習を含めた136時間のカリキュラムで、毎年7月から11月の5ヶ月間、日曜、夜間の利用や通信課程の導入により、仕事を続けながら受講できる内容となっています。今年度もいよいよ7月2日から研修がスタートします。

〔支え合いマップづくり研修会〕



各字で民生委員が中心となって、要援護者の安否確認や声かけ活動を行っている近所支え合い会議の研修会で支え合いマップづくりを行いました。

支え合いマップとは、個々の要援護者に誰と誰がどのように関わっているのかを住民の情報をもとに、地図に書き込んでいくことで、地域の状況や問題を把握していくためのツールです。

それぞれ字の特色が現れ、改めて地域を見直す機会になったようです。今後は防災マップとしての役割も果たせるマップ作成を推進していきます。

～お知らせ～

社会福祉協議会では、住み慣れた地域で安心して暮らしていただくために、日常生活を支援する「福祉サービス利用支援事業」を実施しています。この事業の対象は、高齢者や障がい者で自らの判断能力に不安があり、福祉サービスの利用の手続きや日常生活の金銭の支払い等にお困りの方です。サービス内容は、福祉サービスの利用に関する相談、申込・解約の手続きや利用料金の支払い、年金等の手続き、公共料金の支払い、預貯金の出し入れ等のお手伝いをいたします。また、印鑑や預金通帳、証書などを安全な場所でお預かりいたします。

お問い合わせは、社協事務局（92-2299）までお気軽にご連絡下さい！

